

# 【千葉県】君津市農業再生協議会

方法



## 協議会の概要

申請件数・確認面積：43件、41ha

主な申請品目：新規需要米、大豆

協議会事務局：市役所

経安主担当者：市職員2名、臨時職員1名



千葉県君津市

## 現在の現地確認方法の導入経緯

- ・現地確認用の地図を準備するのに膨大な時間と労力を求められ、**市職員や臨時職員の負担が大きいことが課題**。現地確認では、目印が無い現場で**該当ほ場を特定するのに時間がかかる**。
- ・他部署で用いられていたGISを、農政課（再生協ほか複数事業）でも使えるよう、**追加でライセンスを取得**。新たな機器を購入する必要はなかった。

## 現地確認の方法（対象筆数：416筆）

	導入前（R4年度まで）	現在（R5年度から）
方法	目視（立札、 <b>住宅地図</b> 、野帳）	目視（立札、 <b>GIS利用地図</b> 、野帳）
確認者	市職員1名(市)、臨時職員1名(臨)	市職員1名(市)
時期・回数	7月、9月、追加で数回	7月、9月、追加で1回
手順	①立札や住宅地図、確認野帳の準備（市・臨） （住宅地図は農地の地番が載っていないため、農地ナビと見比べて該当ほ場を特定し印をつける） ②耕作者に立札を郵送し設置依頼（市・臨） ③1筆ごとに目視確認、立札回収（市・臨） （合筆・分筆、区画整理等により、場所や面積等に疑義があるほ場について耕作者に都度確認） ④確認結果を水田台帳へ入力、場所や面積に疑義があった農地を再び目視で確認（市・臨）	①営農計画書情報から、耕作者・農地地番・作付情報をCSVで抽出し、GISにインポート（市） ②立札やGIS利用地図、確認野帳の準備（市） （GISから出力した地図に、座標を埋め込んだ二次元コードと野帳情報等を追加する） ③耕作者に立札を郵送し設置依頼（市） ④1筆ごとに目視確認、立札回収（市） ⑤確認結果を水田台帳へ入力。必要があれば追加で現地確認を行う。（市） （R7は追加の現地確認は無し）
費用	25千円（立札の材料費や郵送費等）	25千円（立札の材料費や郵送費等） ※システム運用費は除く

## 導入の効果（メリット）

- ・現地確認用の**資料準備にかかる時間が大幅に削減**できた。合筆や分筆もGISに反映されているため、**ほ場の場所を確認するために耕作者に連絡する作業がゼロになった**。
- ・確認者のスマホで二次元コードを読み込むことで経路案内ができるため、**移動にかかる時間が大幅に削減、確認者の人数も削減**できた。

二次元コードがついた現地確認用地図の一部分



～現地確認にかかる時間～

※1日=7.5時間で計算

12日×2名=180時間

150時間削減

4日×1名=30時間

導入前

現在

①	55	55-8	大豆
②	56	56-3	大豆
③	62	57-3	大豆
④	29	86	米粉用米